

自由のともいきび

- 企画展「言葉をつくった時代」
- 民権家人物録「宮崎夢柳」
- 企画展「没後90年濱口雄幸」
- 夏休み子ども歴史教室レポート
- 博物館実習報告

VOL. **91**
2021 September



企画展「言葉をつくった時代」後期展示では
高知市立高知商業高校放送部・演劇部のみなさんによる
明治時代の文学作品の朗読音声をお聞きいただけます！

高知市立高知商業高等学校放送部・演劇部のみなさん

高知の歴史を未来へ

■リレーエッセイ

高知県内には歴史資料に関する多彩な博物館、資料館があります。特徴として、高知の歴史に根ざしたテーマや県出身の人物を題材とした資料保存利用機関が多いことが挙げられるのではないかと思います。その代表的な存在が、全国をリードした土佐の自由民権運動と近代資料の保存利用に取り組んでおられる高知市立自由民権記念館です。

また、これらの機関だけでなく、歴史資料の保存活動や研究をたゆみなく続けてこれらの方々のご尽力により時の軌跡を知ることができ、貴重な資料が守られています。学校資料や戦争資料といったそれぞれの分野での取り組みに加えて、「こうちミュージアムネットワーク」という組織をつくり、相互に連携、協力し合うことで、大きな力となっています。そして、ここでも自由民権記念館がキーとなって活動を支えていただいています。

今年度は全国歴史資料保存利用機関連絡協議会という歴史資料の専門機関や研究者の全国大会が高知大会として11月に開催されます。この大会のテーマの一つに資料保存のネットワークが取り上げられます。高知で展開されている地域・行政の枠を超えた「つながる、まもる、のこす」という活動を紹介し、今後のあり方を議論します。

県民の皆様が歴史資料に関心を持たれる機会には、資料展示やテレビ番組などが多いと思いますが、価値ある資料を時を越えて伝える保存活動にも目を向けていただければと思います。

高知県立公文書館は歴史公文書に関する専門機関として令和2年4月に開館しました。当館では、今はまだ歴史資料となっていない公文書も含め、将来の歴史的価値に着目して収集保存を行っています。自由民権記念館をはじめ関係機関と手を携え、高知の歴史を未来へつなげる役割を果たしていきたいと考えています。

高知県立公文書館 館長 森下信夫

企画展

言葉をつくった時代

期間 開催中〜二〇二二(令和四)年三月二七日(日)

会場 二階特別展示室

令和3年4月29日(木・祝)から開催している企画展「言葉をつくった時代」。一部コーナーと全資料の入れ替えを行い、10月9日(土)から後期展示が始まります。

■企画展について

本企画展は、明治時代に起こった「言文一致」という言葉の変化に注目したものです。

自由民権運動は言論の力によるもの、「言葉」を武器にした闘いとして知られています。明治期に言葉の姿が大きく変わったことは意外と知られていません。

明治初期には新聞や書籍は漢文体で書かれるのが主流でしたが、これは多くの人々にとっては理解が難しいものでした。

民権家たちが、より多くの人に自由思想を伝えるためには、文体上の工夫が必要だったのです。自由を人に伝えるため、また自由に思いを表わすため、明治時代

に言文一致体という現代の私たちが使っている言葉の基礎が成立する過程を約40点の資料とともに御紹介します。



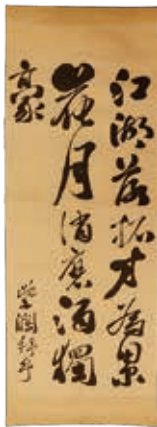
宮崎夢柳 『勤王濟民高嶺の荒鷲』前・後編(当館蔵)

馬場孤蝶 『明治文壇回顧』(当館蔵)



■後期コラム「近代の漢文」

中学や高校の古典の授業で、漢文を習うのを不思議に思いませんか？ 長く、漢文は日本の治世者や知識人の必要教養とされてきました。旧士族を中心とする民権家たちにも、漢文や漢詩に親しんだ人が少なくありません。彼らが言文一致に舵を切るためには、非常に大きな決断が必要だったのです。後期コラムでは、当時の日本に根強く残っていた漢文の影響について、資料を通じて考えます。



坂崎紫瀾書軸(当館蔵)
江湖落拓才為累
花月消磨酒独豪

■ポケット学芸員音声追加

「黙読」は近代の文化と言われていることを御存知でしょうか？

一説では、近代以前の日本人は声に出さないと文章を読むことができなかったとさえ言われています。実際、漢字を読むことのできる人がまだ少なかった時代には、新聞や小説は文字の読める誰かが音読をすることで、より多くの人に伝達されていきました。

そこで、本企画展では明治の言葉を音で感じていただくため、前期より「仮名読新聞」や宮崎夢柳著『自由の凱歌』など3点の音声ポケット学芸員で配信していました。



自由民権記念館での収録風景



ぜひ、展示室で明治の言葉の変化に耳を傾けてみてください。

学芸員 汲田 美砂



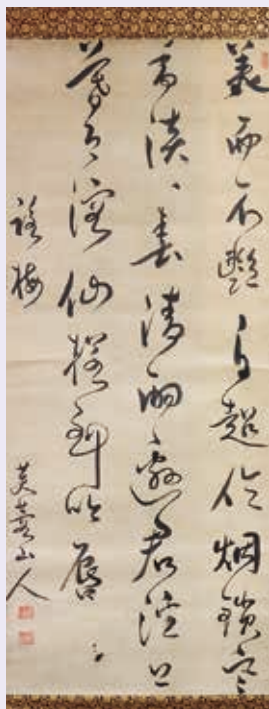
みやざき むりゅう
宮崎 夢柳
(1855~1889)

1883(明治16)年3月28日付
『絵入自由新聞』の
「第百号の謝辞」に描かれた
夢柳のポンチ絵。

一八五五(安政二)年、高知市中新町(現在の高知市桜井町)で、土佐藩士の宮崎富成、多つ子の子として出生。名は富要、号は芙蓉、夢柳。母の薫陶により幼少より和漢の学に才を表し、藩校致道館では吉田稔、谷民衛と共に三鬼才と称された。坂崎紫瀾、結城凡鳥、土居香国らとも交流している。一八七〇(明治三)年、上京し、丸山某の塾に入る。成島柳北、重野成齋などから漢詩を学ぶ傍ら、イギリス人から英語を学んだ。

一八七四(明治七)年八月、島本仲道の北州舎大阪支舎に入って事業を助け、仲道の感化により自由民権思想にふれる。一八七五(明治八)年頃、東北地方を遊歴し、翌一八七六(明治九年)、『茨城新報』創刊に参与した。一八七九(明治一二)年から一八八〇(明治一三)年にかけて『桂林一枝』、『珊瑚鞭』などの雑誌に漢詩を掲載。同年七月、『高知新聞』創刊以降は、民権派新聞の記者として活躍し、同紙上での岸田俊子との漢詩の応酬は話題となった。また、一八八二(明治一五)年一月、紫瀾が東洋一派民権講釈という一座を作った際、夢柳もこの一座に参加し、『馬鹿林鈍柳』を名乗り講釈師として活動した。

夢柳は、同年春頃、上京し、『自由新聞』、『絵入自由新聞』、さらには一八八四(明治一七)年創刊の『自由燈』で活躍した。この頃、外遊でユゴーのアドバイスを受けた板垣退助が、二〇〇冊以上の欧米政治小説を買って帰国。自由党系知識



宮崎芙蓉漢詩(七言絶句)
「梅を詠む」(当館蔵)
美而不艶自超俗烟鎖寒
香淡、春清酬邊君溪上
暮有溶仙口到吟唇
詠梅 芙蓉山人

人に精力的に翻訳させた。この時、夢柳が翻訳した作品のひとつが、『自由新聞』掲載の「仏蘭西革命記 自由乃凱歌」(原作:デユマ)「バスチイユの奪取」である。また、『自由燈』には、夢柳の代表作「虚無党実伝記鬼啾啾」(原作:ロシアのステプニヤク「地底のロシア」)が掲載された。

夢柳は、一八八五(明治一八)年一月には同新聞の社内改革に伴い退社しているが、一八八六(明治一九)年三月一六日には、「鬼啾啾」を納品しなかつた件で出版条例違反に問われ、軽禁固三ヶ月の刑で石川島監獄に収監された。同年六月二〇日出獄後に帰高し、『土陽新聞』記者となる。翌一八八七(明治二〇)年に板垣退助の辞爵問題が起った時、退助が提出した二度の辞爵上言のうち、最初の上言は夢柳の起草によるものであった。その後、大阪に出た夢柳は、『大阪日報』や『浪花新聞』に転じ、一八八八(明治二一)年一月創刊『東雲新聞』にも関係し、「垂天初影」、「芒の一と叢」などを連載した。一八八九(明治二二)年七月二三日、不図瘟熱(急性の熱病)に罹り、大阪堂島濱通りの寓居で死去した。享年三五歳の若さである。

数多くの小説翻案を手掛けながら、実は、書物をほとんど読んでいなかったという夢柳。後に若尾瀾水は、夢柳の文章について「不思議の才があつて、その文を作るに當つてや筆下に新しい語句が珠玉の如く沸きだした」(『一日一話』)と評した。

学芸企画担当調整官 氏原 和彦

◆高知市立自由民権記念館企画展◆

没後90年 濱口雄幸

期間 二〇二二(令和三年)年〇月二日(土)～二月二日(日)

時間 午前九時三〇分～午後五時

会場 一階 自由ギャラリー ※常設展観覧券が必要

今年、高知県出身で初めて内閣総理大臣になった濱口雄幸が逝去してからちょうど90年の節目にあたります。そこで、本企画展では雄幸の素顔を伝える資料や、政治家として活躍した雄幸の政治観・外交観を示す資料を通じて、その生涯を辿ります。

◆濱口雄幸の略歴

濱口雄幸は一八七〇(明治三年、現在の高知市五台山に水口家の三男として生まれました。一八九五(明治二八年)、東京帝国大学卒業後、大蔵省に入省。一九一五(大正四)年に衆議院議員に初当選し、以後六回当選。大蔵、内務大臣を経て、一九二九(昭和四)年、内閣総理大臣に就任。金解禁の実施や国際協調を掲げロンドン海軍軍縮条約の調印などを行いました。翌年、東京駅で狙撃され、その傷がもとで一九三二(昭和六)年に亡くなりました。

◆濱口内閣のめざしたもの

昭和初期の日本をとりまく困難な内外情勢のなかで成立した濱口内閣。激動の時代に難しい国の舵取りを任された雄幸は、「政治ほど真剣なものはない、命懸けでやるべきものである」という信条をもとに、自らの政治姿勢を貫き通しました。

内政面では、金解禁や産業合理化により、日本経済の発展と国民生活の安定をめざし、外交面では、対米英協調と中国内政不干渉を中心とする国際的な平和協調路線を推し進めました。

雄幸が追求し続けた政治のあるべき姿や国際的な平和協調などは、現代社会にも通じる問題と言えます。今日、政治、社会、外交などさまざまな枠組みのあり方が問われています。このような時に、雄幸の生き方を振り返ってみることは、大変示唆に富むのではないのでしょうか。



濱口雄幸(1870～1931)
(国立国会図書館 デジタルコレクションより)

高知県内 濱口雄幸ゆかりの地

高知県内には濱口雄幸ゆかりの地が点在しています。生まれ育った場所や雄幸への想いがつまった場所を辿りながら、雄幸の人生に思いを馳せてみてください。

濱口内閣 組閣記念碑

高知市五台山3371 五台山小学校前

昭和4年、濱口内閣誕生を記念して地元五台山青年団によって建碑された。台座には「郷土の誉れ」とある。



濱口雄幸旧邸

田野町277番地14
濱口家の養子となった雄幸が田野町で暮らしたときの旧邸。邸前の句碑には、遭難の年の暮れに詠んだ自筆の一句「なすことのいまだ終らず 春を待つ」が刻まれている。
入館料：無料
開館時間：午前8時30分～午後5時



二十三士殉節地碑

田野町二十三士公園
清岡道之助を中心とする野根山二十三士の殉節の地。清岡道之助の妻は、雄幸の義父の妹にあたる。記念碑は、昭和3年に田野町青年団が建立。碑面に雄幸の書が刻まれている。



濱口雄幸の銅像

高知市五台山五ノ台 (五台山公園内)

生誕地を望む五台山の頂に建立されている。台座を含めると4m強の高さがある。傍らの碑文は「政治に清き流れを重ねて今願う」と題し、雄幸の経歴と政治理念が紹介されている。



濱口雄幸の銅像原型

田野町ふれあいセンター
高知市五台山にある銅像の実物大の石膏原型。銅像制作者の遺族から田野町に寄贈された。



山地区拡大図



ギャラリートーク

企画展担当者による展示解説を行います。

◆2021(令和3)年10月16日(土)
11月3日(水・祝)

◆各回午後1時～(30分程度)

申込
不要

(常設展企画展共通観覧券をお買い求めの上、直接会場へお越しください)

雄幸の演説を聴いてみよう

レコードに録音された
演説「国民二懇^{うった}フ」の音声
(約6分間)を毎時30分に流します。



この機会に、雄幸の力強い演説に耳を傾けてみてください。

記念講演会

「濱口雄幸のめざした世界と日本のあり方は、
どのようなものだったのか
—ロンドン海軍軍縮条約問題を中心に—」

志半ばで兇弾に斃れた濱口雄幸。

ロンドン海軍軍縮条約締結を重視した姿勢から、
彼のめざした国際社会、そのなかでの日本のあり方を
どう考えていたのかを見ていきます。

講師：川田稔氏(名古屋大学名誉教授)

日時：2021(令和3)年10月23日(土) 午後2時～4時

会場：1階 民権ホール

定員：先着60名

申込
不要

参加
無料



▲遭難時のコート/
濱口家資料・当館保管
昭和5年、東京駅で
狙撃された際に
着用していたコート



▲濱口雄幸演説草稿(初公開)/当館蔵 大正13年、高知堀詰座で行われた演説の草稿

※ギャラリートーク・記念講演会は、新型コロナウイルス感染症の状況により、中止若しくは入場制限等、開催方法の変更を行う場合があります。



濱口雄幸生家記念館 高知市五台山4377

雄幸が19歳まで過ごした生家を復元した記念館。
主屋、蔵、勉強部屋等が修復され、ゆかりの品々も展示している。
入館料：無料
開館時間：午前9時～午後4時
休館日：毎週水曜日・年末年始



雄幸橋 高知市五台山北タナスカ
五台山地区を経由して、高知新港へ通
じる道路が完成した際、下田川に架設
された橋。この橋のたもとに生家を案
内する石碑がある。



四万十川橋の石碑

四万十川橋左岸側
四万十川橋(「赤鉄橋」)左岸側に
3つの石碑があり、そのうちの1つ
には雄幸の書が刻まれている。



濱口雄幸解願の碑 高知市南宝永町

昭和5年、雄幸は東京駅で狙撃され負傷。その
回復を願って地蔵尊に願をかけた人が、雄幸の
復帰に感謝を込めて建立了。老朽化により、
南宝永町内会が再建した。



高知県立高知追手前高等学校

高知市追手筋2丁目
雄幸の母校。(旧高知中学校、高知県尋常中
学校)



令和3年度

夏休み子ども歴史教室 レポート

7月29日(木)、高知市教育研究社会科部会との共催により、自由民権記念館で「夏休み子ども歴史教室」を開催しました。この教室は、今年で24回目。すっかり夏休みの恒例行事となっていました。が、昨年度は残念ながらコロナ禍で中止となりました。今年はずいぶん開きたい！という思いのもと、感染防止対策を行うことで、2年ぶりに開催する運びとなりました。

この催しは、自由民権運動や郷土の歴史を、クイズなどで楽しく学びながら知識を深めてもらうと始めたものです。当日は、高知市内の小学3年生から中学1年生までの59名が参加し、大いに盛り上がりました。運営に御協力いただきました高知市教育研究社会科部会の先生方、劇団「笛の会」の皆さん、ありがとうございました。

当日の子どもたちは、受付が始まった朝9時から元気いっぱい。受付での検温や消毒など、慣れた様子でスムーズに済ませてくれました。

民権ホールで行った開会式では、館長挨拶のあと、当館製作の映像資料「自由民権って何？」を鑑賞しました。役者さん扮

する植木枝盛が、自由民権運動について分かりやすく紹介してくれるものです。

その後、劇団「笛の会」の皆さんによる「自由民権運動大演説会」のお芝居をみんなで見、クイズに挑戦しました。女性の弁士さんが女性の投票権について語ったり、劇中劇で板垣退助が襲われた事件の再現シーンがあったり……劇団員の皆さんの迫真の演技に、子どもたちの眼差しも真剣そのもの。一緒に拍手をしながら、演説会を盛り上げました。

演劇後、先生からの説明をしっかり聞いたら、いよいよクイズラリーのスタート！3つのチェックポイントを回っていきます。各チェックポイントの課題をクリアすると、ラリーマップに板垣退助などの民権家スタンプを押してもらうことができ、3種類の民権家スタンプを集めたらラリー終了です。

参加者全員がすべてのチェックポイントを通したら、民権ホールに戻り、閉会式を行いました。先生に講評をいただき、今年の歴史教室も無事終了しました。

あつという間の時間でしたが、民権に関するクイズやお芝居などを通して、少しでも自由民権運動のことを学んでいただけたのではないのでしょうか。これをきっかけに歴史をもっと勉強したいと思う子どもたちが増えてほしいと思います。

自由は土佐の山間より!



10時 自由民権運動大演説会



9時30分 開会式



9時 受付開始

第3
チェック
ポイント

明治時代の
すごろくに
挑戦しました



民権すごろく

第2
チェック
ポイント



第2常設展示室

第1
チェック
ポイント



第1常設展示室

Q 出題されたクイズから…

問1

坂本龍馬の甥で、立志学舎で学んだ高知県出身の民権家。後に北海道開拓にも行った人物は？

- ア 南海男
- イ 兆民
- ウ 健吉

問2

政府によって演説が取り締まられたことから、「馬鹿林鈍翁」という名前で、講談を行った人物は？

- ア 坂崎紫瀾
- イ 宮崎夢柳
- ウ 林有造

問3

明治20（1887）年、政府が自由民権運動を取り締まるために出した保安条例。このとき出された退去命令に従わず、逮捕された民権家のうち、高知県出身者の割合は？

- ア 20%
- イ 75%
- ウ 100%

クイズの答え: 問1ウ 問2イ 問3ウ



博物館実習を行いました

博物館実習は、学芸員課程を履修する学生にとって、資格取得のための必修科目です。当館では例年8月に博物館実習生の受入を行っており、今年度は、8月3日（火）から8日（日）まで2名の実習生の参加がありました。

初日は、当館の概要や常設展示室の構成など基本的な内容を学習し、2日目からはより実践的な作業を伴う実習となりました。また最終日には、

実習の成果発表も兼ねて、各自で企画展を計画して職員にプレゼンを行いました。

館外での資料調査は想像以上に体力仕事だったり、資料箱の作成はミリ単位の細かな計算が必要だったり……。様々なカリキュラムを通して、学芸員の仕事の実際を学んでいただけではないでしょうか。暑い中でしたが、6日間真剣に取り組みお二人の姿が大変印象的でした。本当にお疲れさまでした。



館を外から眺めながら、館の建築について説明しています。屋根上にある4つの「自由の灯」は、「自由民権運動が高知から四方八方に広がっていった」ことを象徴するデザインとなっています。



常設展示室の解説は、当館の立ち上げにも関わった館長が行いました。館を訪れるだけでは知る事のできない設計段階での裏話を聞き、実習生からは、展示の意図について熱心な質問があがっていました。



資料の保存箱や、「綿布団」（資料を傷つけないための緩衝材）を作成する実習を行いました。実習生は、資料に触れながらの作業に若干緊張した様子でしたが、丁寧な作業の甲斐あって、資料のサイズに合った保存箱と綿布団が完成しました。



学芸員が受付業務を担当することはほとんどありませんが、館内の業務を幅広く知っていただくため、受付業務も体験しました。お金の取扱いや事務作業だけでなく、お客様を迎え入れる際の心得についても学習しました。

出版物のお知らせ

『板垣退助伝記資料集』

第1巻～第6巻 好評販売中

第7巻～第12巻 2021(令和3)年10月刊行

郷土の偉人であり、自由民権運動の指導者である板垣退助に関係する重要な史料をほぼ網羅した資料集です。現在は第1巻(幕末篇)～第6巻(明治20年)を販売しています。6巻1セット、税込18,000円です。また、今秋には第7巻(明治21・22年)～第12巻(明治29・30年)を刊行します(税込18,000円)。

購入・お問合せ: 民権・文化財課

(自由民権記念館内)

TEL/088-832-7277 FAX/088-831-3378

第2展示室 コーナー展示開催のお知らせ

廃藩置県150年を記念して、2021(令和3)年12月末まで「高知県ができたころ」と題したコーナー展示を開催中です。廃藩置県前の2年間のみ存在した「高知藩」、そして廃藩置県により生まれた「高知県」に関する資料を中心に、明治初期の世相を表した資料を御覧いただけます。また、2022(令和4)年1月からは、近年当館所蔵となった新着資料のお披露目を予定しています。

廃藩置県150年記念 期間限定レアスタンプ

龍馬パスポートをお持ちのお客様を対象に、廃藩置県150年を記念した期間限定レアスタンプを御用意しています。御希望の方は、1階受付にてお声がけください。

開催期間: 2021(令和3)年12月25日(土)まで
お問合せ: こうちミュージアムネットワーク事務局

(高知県立高知城歴史博物館内)

TEL/088-871-1629 FAX/088-871-1619



行事予定 (秋・冬)

予定は変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。

◆は当館内自由民権記念館友の会事務局にお問い合わせください。

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、延期・中止とさせていただきます。

開催中～2022(令和4)年3月27日(日)

企画展

「言葉をつくった時代」

会場: 2階特別展示室

※常設展・企画展共通観覧券が必要

※10月8日は展示替えのため休室

※11月3日、2022(令和4)年2月12日にはそれぞれ13時30分から担当学芸員によるギャラリートークを行います。

10月2日(土)～11月21日(日)

企画展

「没後90年 濱口雄幸」

会場: 1階自由ギャラリー

※常設展・企画展共通観覧券が必要

※10月16日、11月3日にはそれぞれ13時から

担当学芸員によるギャラリートークを行います。

10月16日(土) 13:30～16:00

◆第21回「県詞の日」記念講演会

「兆民と枝盛の政治思想……未完の民主化革命論(仮題)」

講師: 松岡億一氏(前自由民権記念館長)

会場: 1階民権ホール

10月23日(土) 14:00～16:00

企画展「没後90年 濱口雄幸」記念講演会

高知近代史研究会第106回研究会

「濱口雄幸のめざした世界と日本のあり方は、どのようなものだったのか—ロンドン海軍軍縮条約問題を中心に—」

講師: 川田 稔氏(名古屋大学名誉教授)

会場: 1階民権ホール

11月20日(土) 9:00～12:00

◆民権史跡探訪

「潮江界隈の史跡めぐり」

集合場所: 自由民権記念館(小雨決行)

12月13日(月) 10:00～

◆「兆民忌」

集合場所: 高知市筆山登り口(雨天中止)

筆山にある中江家墓所の清掃と墓参り

12月19日(日) 13:30～

◆第24回 民権風まつり

「土佐風を作ろう」

会場: 1階自由ギャラリー

1月4日(火) 14:00～

◆第24回 民権風まつり

「土佐風を揚げよう」

会場: 鏡川北岸トリム公園(雨天中止)

1月22日(土)～2月27日(日)

■第22回社会科自由研究作品展

会場: 1階自由ギャラリー

市内小中学生の社会科に関する研究作品を展示

1月23日(日) 10:00～

◆「無天忌」

集合場所: 高知市小高坂市民会館(雨天中止)

山ノ端町にある植木枝盛の墓所の清掃と墓参り

1月23日(日) 13:00～14:00

◆植木枝盛生誕地「現地講演会」

講師: 公文 豪氏(土佐史談会副会長)

会場: 高知市中須賀町 植木枝盛生誕地碑付近(雨天中止)

1月29日(土) 14:00～16:00

■高知近代史研究会第107回研究会

「ブラジルと高知を結ぶ

—森田友和氏関連資料整理から見えるもの—

講師: 村中大樹氏(大阪大学大学院文学研究科博士後期課程)

会場: 1階民権ホール